

建築に関する総合的な研修
(公社)兵庫県建築士会青年委員会
防災・まち歩きツアー

都市防災について考える

日 時：令和6年12月1日(日) 9:30~16:00

行 程：・9:30 JR 灘駅改札前集合

・9:40~10:00 移動

・10:10~12:10 人と防災未来センター

・12:10~13:00 昼食(JICA 関西食堂)

・13:00~14:20 移動(阪神岩屋駅→大阪メトロ阿波座駅)

・14:30~16:00 津波・高潮ステーション、現地解散

参加者：13名(全て士会員、1名は午後から参加)

阪神淡路大震災から30年の節目を迎えるにあたり、「人と防災未来センター」を訪れて、改めて当時の状況やこれまでの復興への道のり、現在の防災への取り組み等を再確認すること、また大阪にある「津波・高潮ステーション」を訪れ、近年激甚化する自然災害、特に都市部に発生する水害について学ぶことを企画しました。

■人と防災未来センター

JR 灘駅に集合し、駅前に整備されたばかりの広場を通り、兵庫県立美術館のあるHAT 神戸を歩きながら、参加者同士で震災当時の話で盛り上がりました。

「人と防災未来センター」では既に何組かの団体があり、順番に4階から案内がありました。まずは神戸の主要な被災ヶ所の状況を動画でリアルに体験できる1.17シアターで発災時の状況を振り返ったあと、3階で震災の記憶が様々な形で展示されているフロアを巡って、参加者同士で当時の状況や体験などを共有しました。

さらに、防災、減災体験のフロアや震災のメカニズム等を体験できるフロアもあり、分かりやすく新しい気づきや学びが多くありました。



防災・減災を学ぶ体験展示



人と防災未来センターの前で集合写真

■津波・高潮ステーション

その後、昼食をはさんで、阪神岩屋駅から電車で大阪メトロ阿波座駅へ移動し、「津波・高潮ステーション」を訪れました。ここでも既に何組か団体が入っている状態でさらに当日の予約なしの客がいたりとかなり賑わっている様子でした。

担当者がついて順番に案内していただきました。まずは映像で大阪の街が歴史的に台風や大雨による高潮や河川の氾濫に悩まされていたことや、埋め立て地であることから元々低い位置に立地して、地盤沈下によりさらに低くなることも原因になっていて、それらに対する様々な対策が行われていることを知りました。

また、パネル展示や水門の実物、水門の動く模型等の展示を通して、最後は大阪市内に津波が押し寄せた場合の映像シミュレーションを体験するなど、規模は小さい施設ながらも充実した展示内容で、改めて日頃の備えの重要性を再確認できたように思います。



大阪湾の浸水被害状況の説明



津波・高潮ステーションの前で集合写真

当日は天候に恵まれ、12月にしては非常に暖かく、まち歩きにふさわしい一日となりました。今回の防災まち歩きツアーは専門家や案内していただく講師を特に呼ばず、参加者同士が施設の展示や体験を共有することにより、当時の状況を自発的なコミュニケーションを通じて新たな気づきや学びに結び付けようとする機会として設けました。また、去年はバスで移動しましたが、今年はバス代の高騰や助成金が無くなったこともあり、現地集合、現地解散の形をとりましたが、移動に徒歩や公共交通機関を用いることによって、逆に参加者同士のコミュニケーションが図れ、有意義な時間になったのではないかと思います。

青年委員会では、防災・まち歩きツアーを次年度以降も継続的に行っていく予定です。

青年委員会委員長 高麗憲志